

二〇一六年九月三〇日

石地藏麦藁帽を被りけり
黒き雲脱ぎて真澄の月涼し
乱れ萩海一望の高台に
道祖神囲みて畦の曼珠沙華
双眼鏡真澄の鷹をとらえけり
野分あと狼藉めける杉林
不揃ひの雨粒宿す彼岸花

二〇一六年九月二九日

湯煙かはた夏霧か山の宿
遺言を書かせる講座うそ寒し
車窓いまネオンの滲む秋時雨
独り酌み仕上げは茶漬け秋深し
秋霖もまた良しとせる吟行子

二〇一六年九月二八日

秋暑し赤信号の長きこと
戦争の苦労話やふかし諸
疎に密に休耕田の秋桜
内海や波の子もなき秋の晴

さつき

なおこ

ぼんこ

克子

さつき

まゆ

よし女

菜々

治男

智恵子

うつぎ

やよい

満天

三刀

こすもす

ぼんこ

二〇一六年九月二七日

草葎踏めばあらぬへバツタ跳ぶ
秋うらら動くともなき熱気球

二〇一六年九月二六日

売り切れの無人野菜や野路の秋
触れまじと思ひつ触るる萩小径
結局は捨てる木の実をポケットに
石人に梢を洩るる秋日影

二〇一六年九月二五日

雲の影くつきり落とす秋の山
秋淋し筑前琵琶の音色また
愁思あり発掘されし石人に
裸婦像の豊胸反らす天高し

二〇一六年九月二四日

秋憂ふ開けて嚙んでと歯医者さん
秋彼岸番茶を沸かす大薬缶
落暉いま黄金に染む鱗雲

たか子

やよい

やよい

うつぎ

たか子

豆狸

明日香

さつき

豆狸

やよい

明日香

なつき

隆松

毎日句会みのる選・二〇一六年一〇月二日